

R-18
Adult Only



北北北

「そうですか
ではその女性は
あなたの化身なんですわね」

「はい……いつも通り
試合中に出したんですが
何故かこんなに小さく……
まるで人間の女性のような
大きさになっていて……
言葉も話せないままのようだし
しかもいつもみたくに
消すことができない」

「それは困りましたね……」

「はい、
すみません」

「すみません」

「ええ……それで
困り果てていたら……
この化身を
調べるための
研究施設を紹介されて
化身を……タマズサを
元に戻してやることは
できませんか？」

「なるほど……
そういうことでしたら
力になりますよ
ではあなたの化身の
タマズサでしたか
少し検査してみますので」

「はい、お願いします」

「さくして二人きりになれたね
えいっとタマズサちゃん
……だったかな
うくん化身だから
お話できないのが残念だね」

実は化身がこのように
我々人間に近い状態になって
現れることは珍しくないのだ



ただそれを知るのには
ボクのような
研究者くらいのも
ものなので…

何も知らない
彼ら化身使い達は
こうしてボクら
研究者を頼って
化身を連れてくると
いうことだ



「しかし今回の
タマズサちゃんは
えらく可愛いし
おっぱいも大きいね…」
「？」

「フフフ、こんな話
されても
わからないよねえ…？」

「この状態になった化身は
実は2、3日もすれば
自然に元に戻るんだよ
でもまあ…
それをそのまま伝えて
はいサヨナラじゃあ…
勿体無いからねえ」

「筋肉ガッチガチの
男性型の化身ならともかく
タマズサちゃんみたいなの
化身を放っておくなんて
もったいないもんねえ？」

「はい、それじゃあ
タマズサちゃん
まずはその大きな
おっぱいから
検査しようね？」

「あーっ」



おや？タマズサちゃん
人間が相手でも
おっぱいを
見られるのは
恥ずかしいのかな？
顔をこんなに赤くして…

いいねえ
そうこなくちやなあ

かああ

おっぱい

「タマズサちゃん
極上のおっぱいだねら
ずっと揉んでいたいなあ」
「…っ…っ」

おろおろ
プルプル
震えちゃって…
感じてんなくこりやあ

「……うらむ」
 (揉みまくってんのも
 飽きないけど、
 そろそろ一発抜かないと
 持たないな)

「タマズサちゃん
 これでおっぱいの
 お熱はかるうね」

「……?」
 「タマズサちゃん……っ
 タマズサちゃん……っ
 くうう……!」

「うほおおお」
 タマズサちゃんの
 おっぱいサンド
 やべえええええ!!」

おおお…
おっばいに
搾り取られる…!!

ジュン

「はあ…うくん
タマズサちゃん
やっぱりお熱が
あるみたいだね
そのせいで元に
戻れないのかな？
これじゃあの
カワイイ
ご主人様のところに
戻っても
困らせるだけかも」
「…!!」

ご主人様…
と言った途端に
焦りはじめた。
言ってることがまったく
理解できないわけでは
ないみたいだな…

くさ…

「タマズサちゃん
カワイイご主人様に
迷惑かけてるって
気付いてるんだねえ」
「……………」

おほおほ

(おほおほ…
傷ついている
タマズサちゃんも
かわいいな)



……………」

「タマズサちゃんか
ボクの言うこと
聞いてくれたら
ちやうんと
元の大きさに戻れるし
いままで通り
姿を消すことも
できるんだよ
頑張れるかな？」

ぽよん

「……」
どうやらタマズサちゃんは
頑張る気らしい。
いやあ、いい化身を
持ったねあの子
「それじゃあ……
ボクのいうとおりにしてね」



「そうそう……
そのままボクに
お股を広げててね
タマズサちゃん」

タマズサちゃんは
あまりの恥ずかしさに
大きな目を
うるうるさせているが
ご主人様のために頑張っ
て
ボクにアソコを
見せ付けている

お股広げ

ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

「タマズサちゃんは
クリが大きいねえ♡
自分で触ったこと……
は、ないよねえ？」
「……ッ」



どうやら
タマズサちゃん
はクリをこね回さ
れるのがお気に
召したようだ
腰を浮かせて
ビクビクと痙攣
する姿はボク
の下半身にかなり
くる

「タマズサちゃん
イキそうになっ
たら我慢しないで
いいんだからね」

「...?」
「ああ、イクって
わからないよね。
いいよ、いいよ、
大丈夫、これから
嫌でもわかるから
...ね！」



クリを思い切り
押しつぶしてやると
タマズサちゃんは
激しく痙攣し
子犬のような
鳴き声をあげた



「タマズサちゃん
はじめてのアクメで
ぼくっとするのは
わかるけど
まだ頑張って
もらうよ!!」

グワッ

「ぞろぞろっ!!」

タマズサちゃんの
ナカは予想通り
キツキツで
ボクのチンポを
キュウキュウと
締め付けてくれる

「!!」
「あくやっぱ
化身まんこ
サイツコー!!」

「タマズサちゃん…」
「タマズサちゃん…っ」
「…ッ…ッ」
「タマズサちゃんの子宮に
ボクのチンポが
チュウチュウしてるの
わかるかな？」

「…ッ！」
「あゝダメだ
ガマンできない！
タマズサちゃん
チンポ締めすぎッ
タマズサまんこに出すよ」



「タマズサちゃん
頑張ったねえ…
ボクがお注射
してあげたから
あと2、3日もすれば
いつものタマズサちゃんに
戻れるよ」

あ
♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡



タマズサちゃん
満面の笑みを
ボクに向ける
これで彼女も
安心して
ご主人様のところへ
戻れるだろう



いやあ
イヤことをした後は
気持がいいなあ





朝起きると
俺の化身
ブリュンヒルデが
まるで人間の女性のような
大きさになっていた

やっぱりキミは
ブリュンヒルデ
だよな...?
ふむ...

漢!

何がなんだか
わからぬが
とりあえず
学校へ行こう!

とりあえず
目立ちそうなものは
全部俺が預かるう

ブリュンヒルデ
どうやら
その装備が
いけないらしい

うくむ
目立って
しまうな





















おい！
あの二人
盛り上がったん
じゃねーか

きゅきゅ
きゅきゅ



試合中
なんだけどなー！



こらアテナー！
感じてんじゃねえ！





レイバーが
消えちまった!

んはおおお...



アテナは
俺が守る!!



ヒギイ!
これは虐殺の
ヨ、カ、ン...!!

テメエら
覚悟はできてん
だろうな!



よい子は
サッカー中に
セックスしちゃ
いけないぞ!
肉棒のレイバーとの
お約束だよッ



この本は個人の
二次創作であり
関係者様各位とは
一切関係ございません
無断転載、
ネットオークションへの出品
webへのアップロード等
一般の目に触れる場所への
公開は一切厳禁です
また、この本は
成人向けの為
18歳未満の観覧は
ご遠慮ください

手にとっていただき
ありがとうございます。
ナユザキ



■「化身H」
■印刷 丸正インキ様
■発行日 2013/06/02
■発行者 ナユザキナツミ (ほたもちの宴)
<http://nayuzaki.x.fc2.com/>



花儿朵朵2013